



# ホッコクアカエビ日本海系群 令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

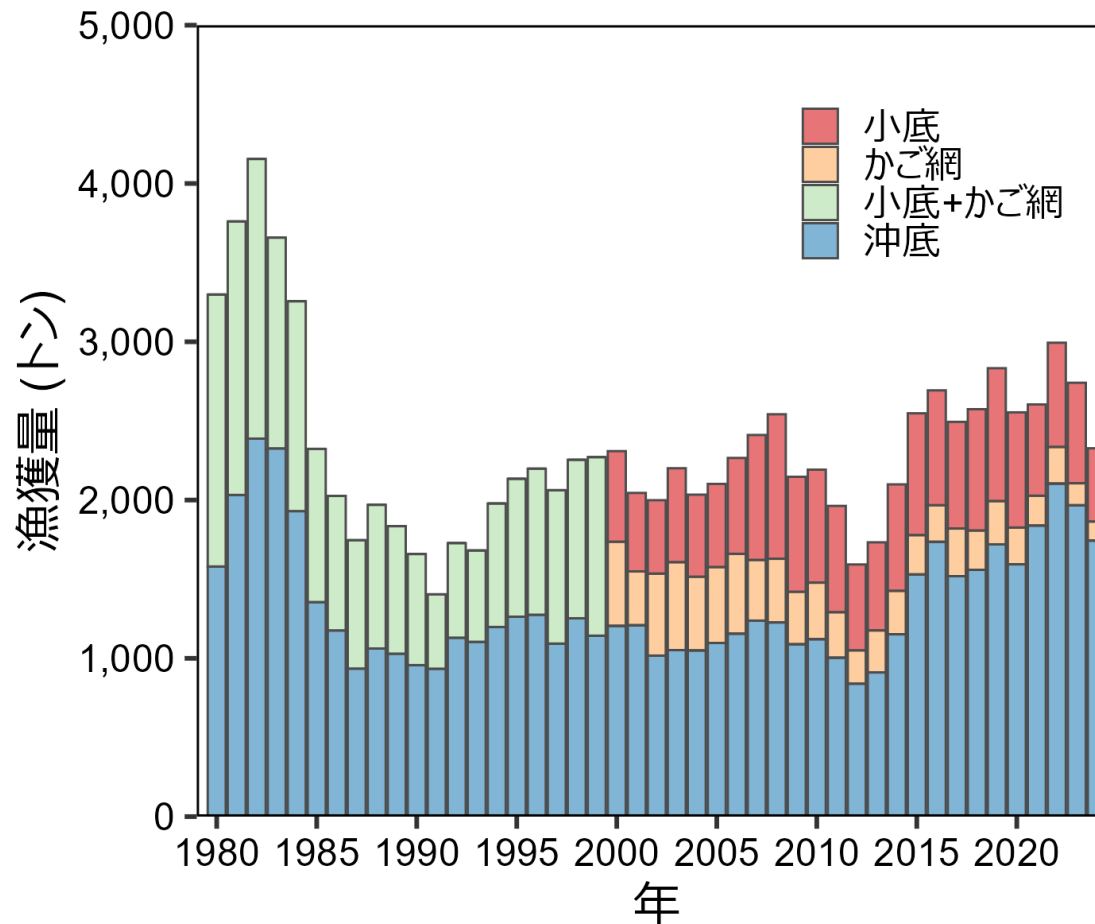


## 生物学的特性

- 寿命：11歳
- 成熟開始年齢：雄性先熟の雌雄同体（満5歳で雄から雌に性転換する）で、雄としての成熟は3歳、雌としての成熟は6歳
- 産卵期・産卵場：2～4月（盛期は3月）、水深200～300mの海域と考えられる
- 食性：微小な甲殻類、貝類、多毛類、デトライタス等
- 捕食者：マダラ、スケトウダラ等の底魚類

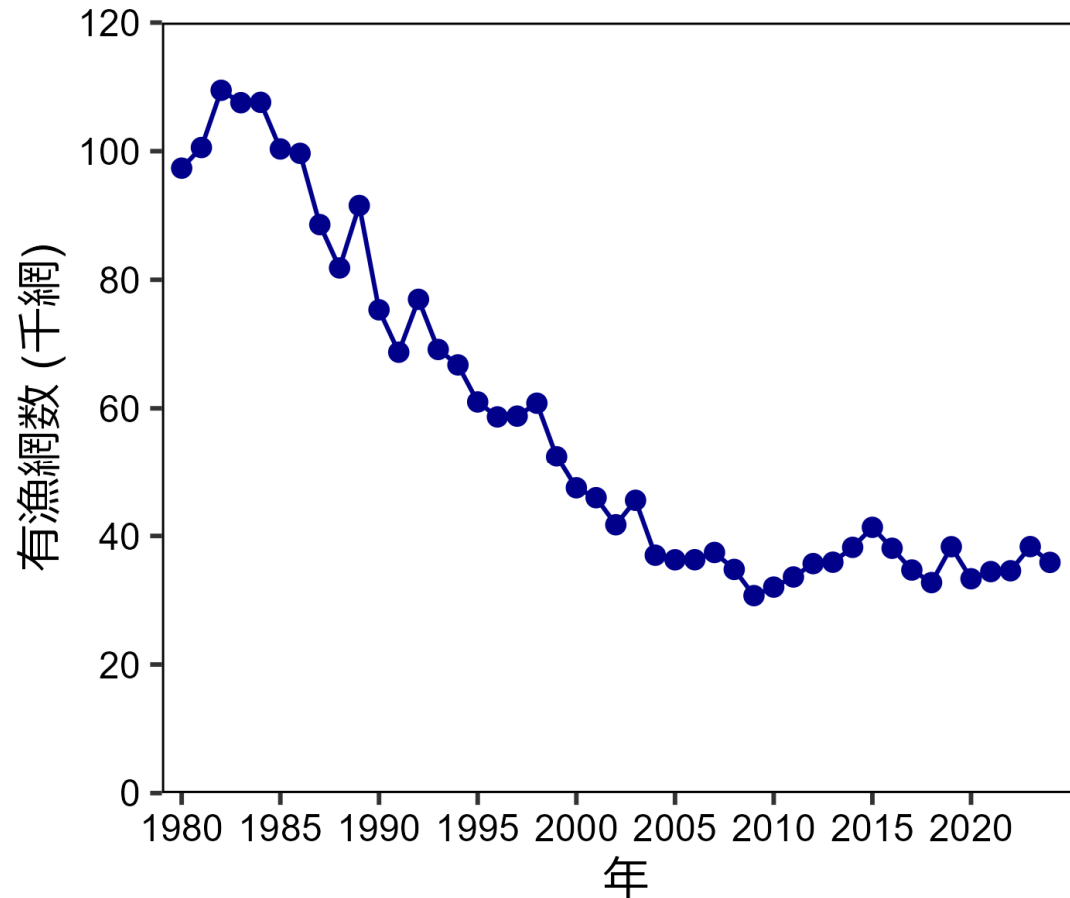
- 底びき網漁業で周年漁獲される（本州沿岸の休漁期には大和堆で操業）

# 漁獲の動向①



- 2024年の漁獲量：2,328トン（2023年：2,741トン）
- 底びき網が大部分を占め、近年では約70%が沖合底びき網（沖底）、約20%が小型底びき網（小底）、残り10%程度がかご網およびその他の漁業である

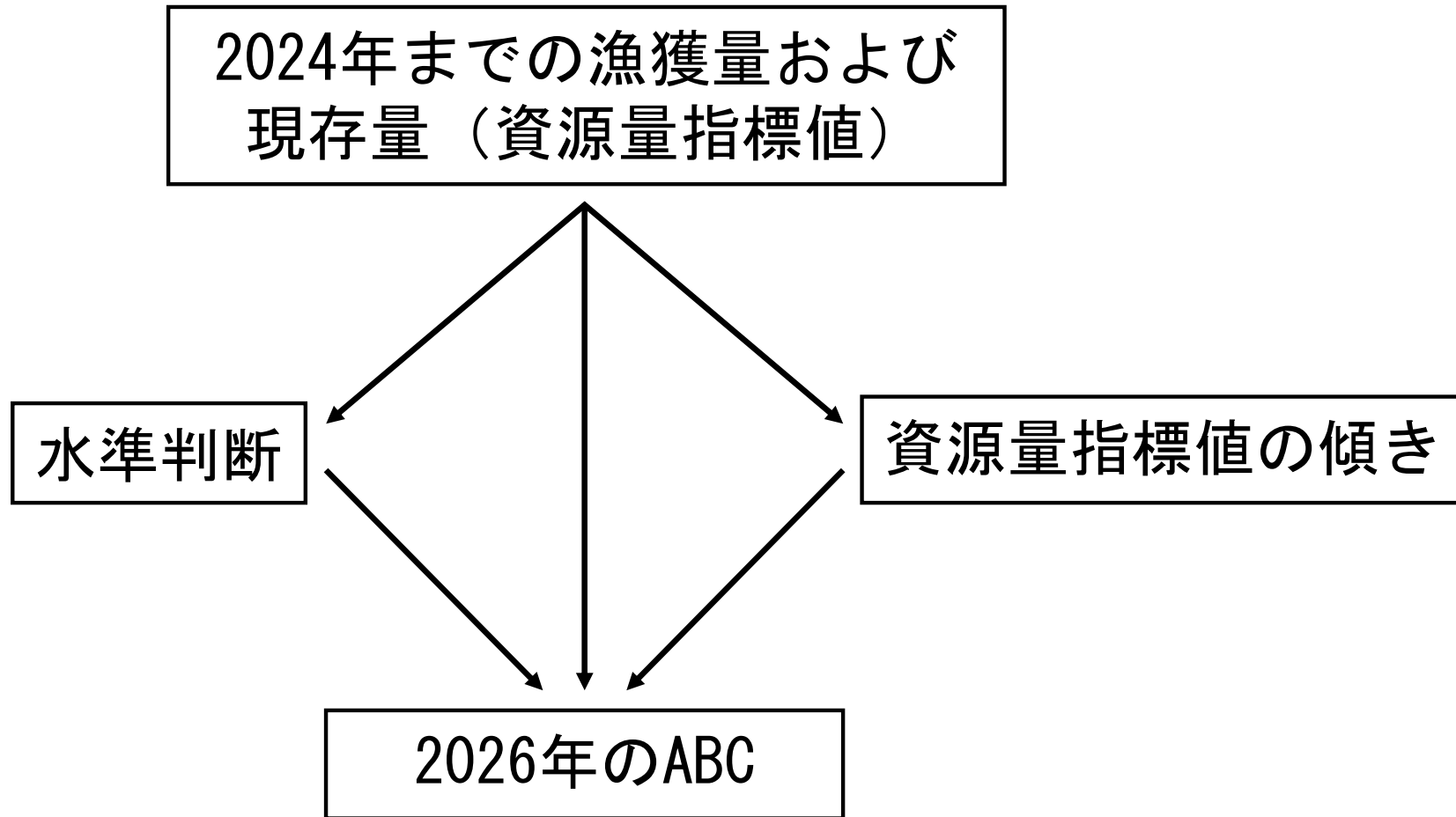
## 漁獲の動向②



- 沖底の有漁網数は1980年代前半に100千網以上であったが1985年以降は減少傾向を示し、2009年に過去最低値（31千網）を記録した後、増減を繰り返し、2024年は36千網

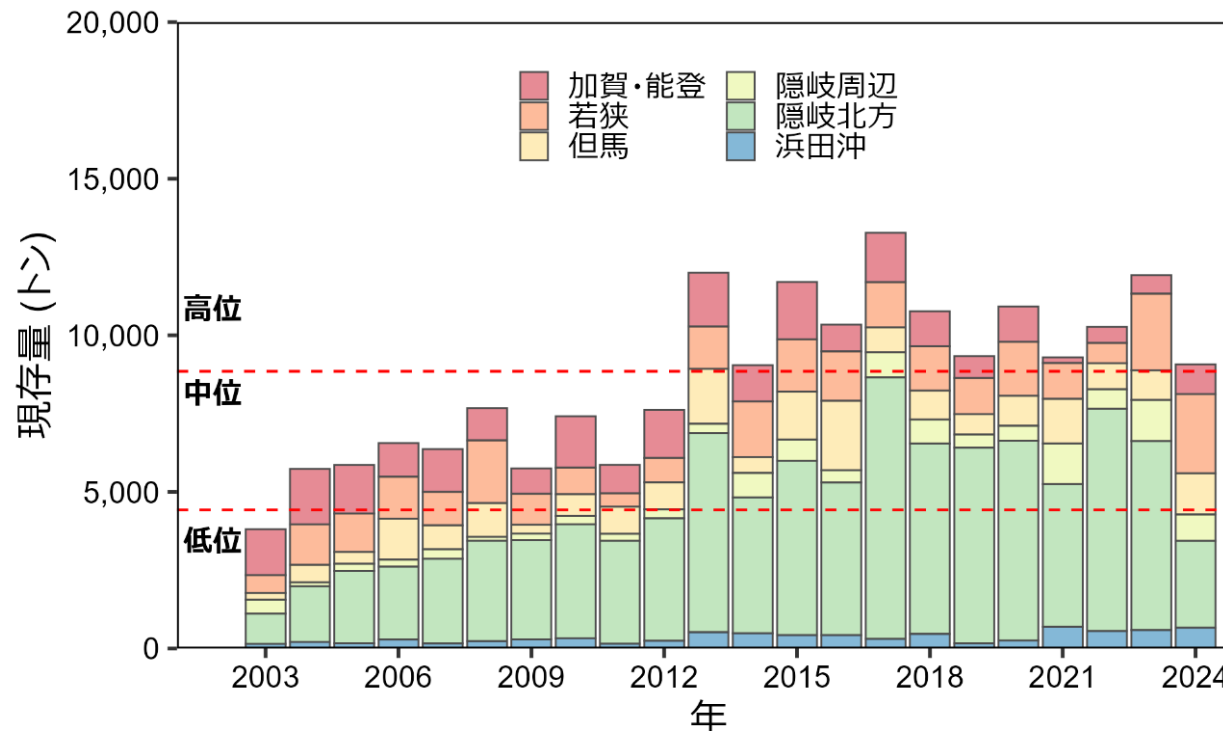
※有漁網数：本種の漁獲があった操業（有漁操業）の曳網回数

# 資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向①



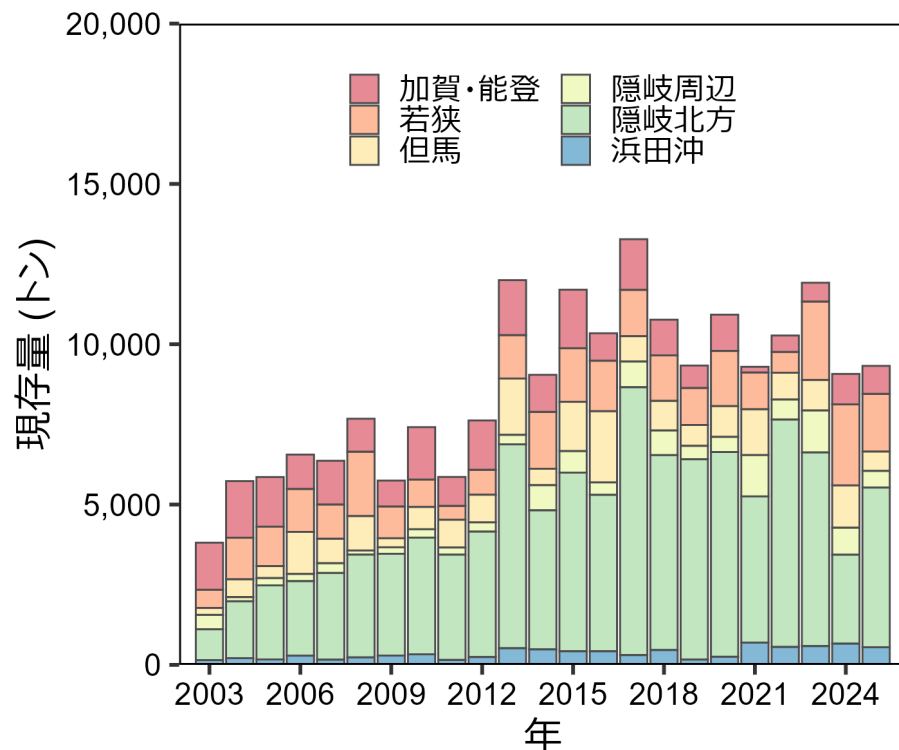
※水準区分 低位／中位：現存量（4,425）、中位／高位：現存量（8,851）  
（2003～2024年のトロール調査に基づく現存量の最高値と0の間を3等分）

- 資源水準：2024年の現存量（9,074）から「高位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の現存量の推移から「横ばい」

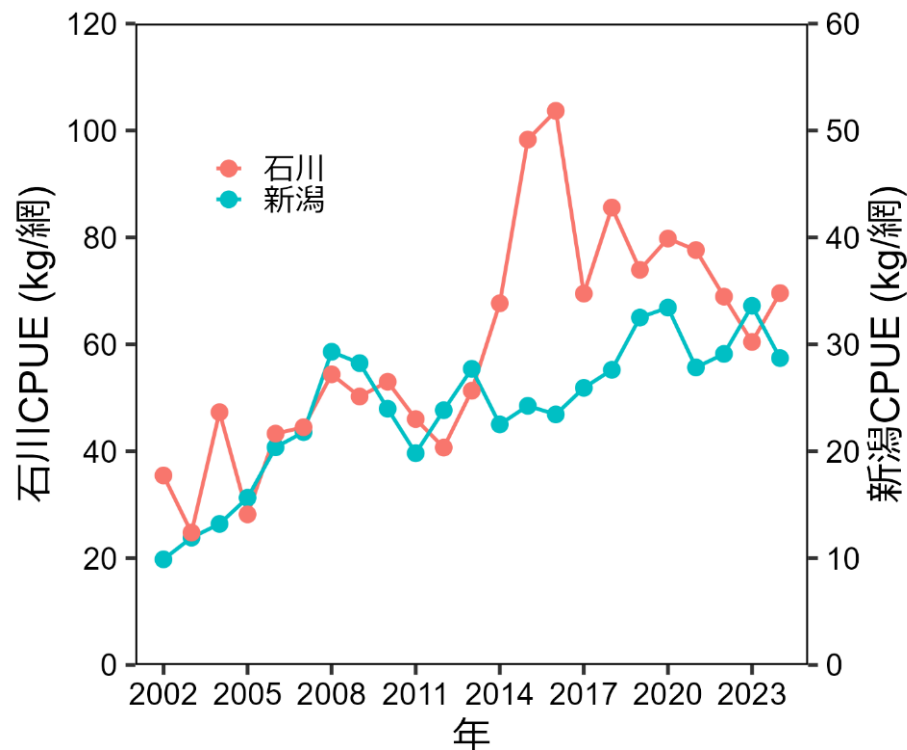
※ 現存量：日本海西部海域の水深190～550mにおいて実施されたトロール調査（日本海ズワイガニ等底魚資源調査）に基づき、面積密度法により算出。  
なお、トロール網の採集効率を1.0とした

# 資源の動向②

## 現存量 (2025年結果を含む)



## 小底CPUE



- 現存量は、2003年以降概ね増加傾向にあり、2013年以降は高い水準で横ばい傾向
- 小底CPUEは、新潟県では2002～2008年にかけて大きく増加したのち横ばい傾向、石川県では2013年以降増加して2016年に最高値となったのち減少傾向

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は「高位」、動向は「横ばい」
- 2003～2024年のトロール調査に基づく現存量を資源量指標値として資源状態を判断した

## 2026年ABC

管理基準	Target/ Limit	2026年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・Cave3-yr・0.94	Target	2,021	—	—
	Limit	2,526	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 1.0 (資源水準が高位である場合の標準値)
- $Ct$  : Cave3-yr (直近3年間 (2022～2024年) の平均漁獲量)
- $\gamma_1$  : 0.94 (直近3年間の現存量から算定される係数)